

第2章 「YONONAKA」は、誰が決める？！

～「正しい」結論って、あるの？～

(1) どれ「が」結論？ どれ「も」結論！

そもそも、数学(算数)なら、20と19で数が多いのはどちら？と聞かれれば、答えは1つ。
20>19(20は19より大きい)で「20」です。



でも、クラスの中で意見を決めるとしたら、答えは1つなのでしょうか。

第1章で取り上げた文化祭での出し物の決定にしても、声に出して言うかどうかは別として、
いろんな人がいろんなことを考えているでしょう。



同じクラスメートっていう中でも、やりたいこととその理由は様々で
どんな答えに決まるか、わからないよね。

ということは、YONONAKAの課題なら、もっともっと多くの人が、
様々な立場で意見とその理由を持っているはずですね。

私はまだ高校生だし、
政治やYONONAKAのこと、よく知らないから、
私なんか意見と言わなくてもいいんじゃない？



18歳になったら高校生も選挙権を得ますよね。
うまく意見を言えないかも知れないけど、声を届けることが大切ですよ。
高校生にしか、わからないこともあるし、
それぞれの立場で考えた意見は、それぞれに大切なんですよ。
みんなの意見が求められているんです！！

これが正しいって、自信がないんだけど…
間違っていたらどうしよう?!



みんなが「これが絶対正しい」って思う答えってあるのでしょうか？

私は

と思います。



現実社会の問題に対するテレビやインターネットの世論調査では、
100%賛成、100%反対という結果を見ることは、ほぼありません。
(もちろん、調査した時期や対象、期間によっても、数字はいつもかわっていますね。)



YONONAKA では、いろんな立場の答えが存在する!!



だからこそ、いろんな立場のいろんな意見を集め、
そのとき、その場での最適解、納得解を求めているんだね。



第1章で考えた、「十分な話し合いによって合意を形成しようとする努力」、
「少数意見の尊重」のために、必要なことは何だろうか？

「十分な話し合い」って…何だろう？

- みんなが意見を言うこと？
- お互いの意見をよく聞くこと？

私は

だと思うな。



「合意形成」って、いろんな意見を持つ人がいて、
その意見をまとめようとするのだよね。

でも…「意見をまとめる」って難しいですよね。



最近では、その施設の必要性はわかっているけど、私の家の近くには作らないでほしいって考える「NIMBY(not in my backyard)」や、同調圧力^(※1) なんていう言葉もあるくらいです。

だから「合意形成をしようとする努力」が必要。
合意形成ができなくても、その過程での多様な意見の交換が大切!!



だからこそ、これが Point!!

高校生にがんばってほしいこと

- **意見を言う**
間違ってもいいから、恥ずかしがらずに…(小中学生の頃は、言ってたよね?)
- **意見を聞く**
冷やかさない。
もちろん、少数意見もきちんと聞く。

はじめてから「私には難しい」って思って、意見を言わなかったり、
「私には関係ないから」って言って、人の意見を聞かなかったり…
そんなことは、やめましょうってこと



合意を形成する努力を重ねるために、
あなたが考える大切なことは何でしょう？

私は

と思います。



※ほかの人の意見も聞いてみましょう。

私は

と思います。



※1 同調圧力…集団において、少数意見を持つ人に対して、周囲の多くの人と同じように考え行動するよう、暗黙のうちに強制すること

(2) 誰か「だけ」が決めるんじゃない、誰もが決めるんだ

決めることって面倒くさいって、思いますよね。

どうしてそう思うのでしょうか。

それは、多分、責任が伴うからです。

他人任せにして、決まったことに、

後から意見を言う…

気持ちが楽ですよ。



18歳になれば、選挙権を得ますよね。
責任感をもって、社会に参加していくことが大切だね!!

そうは言いながら、話をするなかで、
あ～かな? こ～かな? って、流されてしまう…
話し合いばかりでも決められないし…



(大人も、きっとそうかも…)



高校生活のなかで、
互いに意見を出し合って、他者の考えを受け入れたり、
意見を交換しながら、協働して問題の解決に取り組む
っていう経験を積んで、
たくさん考えて、たくさん議論して、
たくさん失敗して、たくさん学ぶ…ことが大切!



現実の YONONAKA の課題を考える(決める)ことが、
明日(10年後、20年後、30年後…)の
YONONAKA を形づくる(かえる)ことになるんです。

このワークシートは、ハンドブック「18歳で成年になる皆さんへ『私がかわる「社会(YONONAKA)」がかわる! 私がかえる「社会(YONONAKA)」をかえる! はじめの一步!!」(徳島県教育委員会)を再編集したものです。
※引用・参考文献 佐伯胖監修『どんな方法があるの? 決め方の大研究 ジャンケンから選挙まで』2012
総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来』『同 活用のための指導資料』
注釈は『デジタル大辞泉』『政治・経済用語集』(清水書院)を参考にしています。